

Gartner Symposium / ITxpo 2005に出展

2005年11月30日～12月2日の3日間、「Gartner Symposium / ITxpo 2005」(ガートナー・ジャパン株式会社主催)がホテル グランパシフィック メリディアン(東京・台場)を会場に開催され、日本アイ・ピー・エム株式会社(以下、日本IBM)は特別協賛企業として参加。受講者の多数がCIO(最高情報責任者)や企業のIT(情報技術)部門のリーダークラスというこのシンポジウムで、「IBMのご提供するITインフラ・ソリューション」と題したデモ展示や、二つのセッションとマーケットプレース・シアターでの講演を行いました。

本誌47号の特集でもご紹介したように、仮想化やSOA(Service Oriented Architecture)をはじめとした先進テクノロジーを使った製品が次々とリリースされ、ITインフラ・ソリューションは、既に普及期に入ったことを実感させる充実した内容となりました。その様子を誌上で再現します。

展示内容

・仮想化技術が実現するITインフラの最適化

多くの企業では、企業の売り上げ成長に貢献するITインフラが求められています。しかし、社内のIT環境が長年の間に複雑化し、柔軟なITシステムを迅速に構築することが困難になっているのが現状です。また、この複雑さは管理運用コストの増大にもストレートに結び付いています。

異機種が混在するIT環境のシンプル化に、IBM Virtualization Engine™によるシステムの仮想化ソリューションが大いに役立ちます。統合された操作環境でシステム全体を効率的に管理・運用することができるようになり、IT資源の有効利用や管理コスト

の削減を実現します。その結果、個別最適化を繰り返してきたIT環境の全体最適化を図ることができます。

また、先進のオートノミック技術を搭載したシステム運用管理ソフトウェアTivoli®との連携によって、さらに自動化されたITインフラの構築が可能で

す。一方、ネットワーク環境の複雑さに対しては、IBM Network Virtualizationが有効な解決策となります。ネットワークを含めたトータルインフラストラクチャーの統合化・自動化を実現します。

・データからインサイトへ。情報活用 の深層が見える

企業内に大小さまざまなシステムが導入された結果、膨大なデータがあちこちに分散して蓄積され、効率的に利用されていないという状況が多く見られます。さらに、SCM(Supply Chain Management)やCRM(Customer Relationship Management)など、企業の内外に分散する情報資源の有効利用に対するニーズが高まり、情報統合の必要性がクローズアップされています。

IBM WebSphere® Information Integratorは、このような情報統合の要求に応じて、企業の内外に広範に存在するデータを収集し、日常の業務から経営判断まで各レベルで活用するための新たなアプローチ方法を提供します。さまざまな組織や場所に散らばるデータベース群を仮想化し、統一された操作環境(単一ビュー)での高速アクセスを実現。エンドユーザーにデータの所在地を意識せず、まるで一つのデータベースを操作しているかのようにデータへアクセスできるようになります。

これにより、従来のデータベース環境では困難だった、多種多様なデータソースにあるビジネス情報の有効活用や再利用が、低コストかつ短期間で可能になります。

IBM WebSphere Information Integratorのフェデレーション機能では、データへ直接アクセスすることによってリアルタイムで情報が得られるため、コールセンターなど最新の情報が必要な業務に適しています。またレプリケーション機能では、必要なデータを別のデータベースに格納する際に、更新されたデータの差分だけをほかのデータベースにコピーするため、一括コピーに比べて最新データの反映時間を大幅に短縮することができます。

常にリアルタイムの最新情報が求められるのか、それとも在庫情報や販売情報などのようにニア・リアルタイムでもいいのか、必要とされるデータの鮮度に応じて最適な方法を使い分けることができるのもIBM WebSphere Information Integratorの大きな特長です。

さらに、集約されたデータを分析に生かすために、データの抽出・クレンジング・加工を行い、品質の高いデータに変換するのがIBM WebSphere DataStage®、QualityStageといった、IBMに新たに統合された旧アセンシャル社のデータ統合製品群です。

こうして得られたデータを分析するには、DB2® UDB Data Warehouse



SOAなどのご紹介コーナー

Editionのフロントエンド分析ツールであるDB2 Alphabloxが役立ちます。グラフィカルで分かりやすい分析ツールとして、データをWeb環境上からリアルタイムにフル活用することができるようになり、素早い経営判断をサポートします。

SOAに基づく柔軟で再利用可能なITシステムの構築については、デモ展示とともにマーケットプレース・シアターにてプレゼンテーションを行いました。

・ 事業継続を支えるビジネスレジリエンス

24時間休むことなく動き続ける今日のビジネスでは、その継続を妨げるような脅威に対して常に備えておかなければなりません。そのためには、地震などの自然災害やシステム障害を想定した対策が不可欠です。さらに、ビジネスチャンスへの迅速な対応も必要です。IBMはこのようなチャンスへのスピーディーな対応を確保しつつ、ビジネスの継続性や回復力を実現する各種ソリューションをご提供します。

IBM Systems & @server®は、オートノミック・コンピューティングのテクノロジーによる自己修復機能を備え、システムの停止を極力避けるようになっています。これにより、トラブル発生時だけでなく、メンテナンスのための停止時間も大幅に削減。高い信頼性と高可用性を実現します。

災害対策を計画する際に特に注目されるものとして、災害対策アセスメントサービスが挙げられます。これは、災害時の影響を最小限に抑える

ための、事業継続計画の基本方針立案を行うコンサルティングサービスです。さらに、この基本方針に基づき、システム構築サービスによって災害対策・障害対策システムを構築。災害や障害時にビジネスを迅速に再開できるシステムの構築をサポートします。

システム構築後の運用フェーズでは、災害時の代替機器提供サービスや、災害対策システム管理支援サービスをご提供します。災害時に備えた事前のテストを支援するとともに、災害発生時には具体的なシステム修復作業のための各種支援を行い、システムの停止時間を最小限に抑えます。「ビジネスを支える情報システム」から「ビジネスを止めない情報システム」へ、今の時代には打たれ強く回復力のある「ビジネスレジリエンス」が求められています。

・ 対策の鍵はセキュリティアーキテクチャー

ITシステムのセキュリティ対策に本格的に取り組み始めた企業が増えています。個人情報保護法の施行やコンプライアンスの問題だけではなく、実際に情報漏えいやシステム停止などの被害が急激に増加していることが原因です。しかし、企業ではセキュリティの重要性は十分に認識しているものの、どこから手を付けたらいいのか分からない、セキュリティ対策の効果や最適な投資規模、対策の着眼点などが不明瞭であるという声をよく耳にします。

このようなお客様の課題を解決するIBMのソリューションでは、まずセキュリティポリシーに連動したセキュリティアーキテクチャーを設計し、セキュリティ対策の全体像を明らかにしてからお客様の優先順位を策定。インターネットセキュリティ対策や情報漏えい対策など、さまざまなソリューションを実装するお手伝いを



チャールズ・エイジーの講演

します。

この手法では、まずセキュリティー対策の全体図とロードマップが明らかになるため、投資効果の最大化を図ることができます。また、重複した投資を避け、網羅性の高いセキュリティー対策を実現します。

シンポジウム

・ ビジネスとITの融合を実現する オンデマンド・オペレーティング環境

日本IBM IGS事業ITS事業部 部長(理事)のチャールズ・エイジーが講演しました。

10年間にわたってアジア各地でビジネスを行ってきた自らの経験を踏まえて、彼はまず環境の変化について述べています。

「ITの役割が大きく変化するにつれて、CIOの役割も変化を余儀なくされています。一言でいえば、IT部門に対するプレッシャーが高まっているということ。例えば、新しいITシステムの導入が、ビジネスの成果に直接つながらなければならない。しかも、より多くのことを、より少ないもので達成する必要があるといった具合です。また、ハードウェアや個々のソフトウェアよりも、ソリューションに対する投資が重視されるようになってきました」

こういった背景の元に、オンデマンド・ビジネスを実現するためのオンデマンド・オペレーティング環境を実際に導入して大きな成果を上げたお客様企業について述べています。

「オンデマンド・ビジネスは最終的な顧客満足度の向上を目指すもので、ビ



ビジネスレジリエンスのご紹介コーナー

ジネスとITの高度な融合によって人とプロセスとテクノロジーが結び付き、企業の成長や変革の新たなレベルが達成できます。

そのためには、現状の縦割りのITシステムの弊害を取り除き、統合化されたITインフラを構築する必要があります。

その良い例としてダイムラー・クライスラー社様が挙げられます。同社では、アプリケーションの開発・展開および運用が標準化された環境を実現した結果、120のアプリケーションコンポーネントによって30%のコスト削減を達成しました。

また、世界中でトラベルデータの提供などを行っているOAG様でも、SOAをうまく活用してITコストを全体で30%削減しました。

このように、『なぜ、オンデマンド・ビジネスに向けて取り組まなければならないか』という時代から、今は『どう変えていくか』というフェーズに移行したのです。そこでは、ITへの投資の中でソリューションの占める割合が増加しています」

IBMがご提案するソリューションのポイントを、彼は四つにまとめてご紹介しています。

「考慮すべきなのは、まずビジネスの柔軟性。次にITの最適化。情報の戦略的活用。そしてビジネスの回復力とセキュリティです。これらのポイントを押さえた上で、IBMは企業変革と新しいITインフラの導入を同期させることを支援します。統合化され最適化されたソリューション同士を連携させ、費用対効果の最も高いITソリューションポートフォリオをご提供します」

・オンデマンド時代のITインフラのあり方と実際

先進のオンデマンド・オペレーティング環境を導入したお客様の事例について、日本IBM テクニカル・セール



講演中の関 孝則

ス・サポート 技術理事の関 孝則がお話ししました。

「ITインフラの複雑さが加速度的に増大し、トラブル発生時やシステム更新の

際に、どこから手を付けたらいいのか分からないような状態になっています。ITのシンプル化は、運用管理のコストを低減し、その分を新規投資に回すためにも重要です」

さらに、ITのシンプル化を実現するためにIBMがご提供するソリューションと、その導入事例についてご説明しました。

「SOAに基づいた柔軟なシステムのために、IBMのWebSphereプロセスインテグレーション製品を活用して、既存のアプリケーションをサービスとして再利用できるようになります。

情報の戦略的活用の面では、分散して蓄積されたさまざまなデータを仮想的に統合してアクセスできるようにすることが重要です。

サーバーの統合(サーバーコンソリデーション)によるITの最適化や、ビジネスの回復力およびセキュリティ対策の面でも、既にIBMのご提供するソリューションを導入して高い効果を上げているお客様企業がいらっしゃいます。運用管理コストを大幅に削減するとともに、ビジネスの変化に即応する柔軟なシステム基盤が実現されています」

最後に、ITインフラの現状と将来について言及しました。

「振り返ってみると、ITの資源管理からITインフラの管理へ、そして今後はITサービス自体の管理へと進んでいきます。将来的には柔軟で安定したITインフラの下で、アプリケーションの開発や相互連携がより容易になるでしょう。」

マーケットプレース・シアター

・IBMと実現するReal SOAの全容

シアターの最初のセッションで、日本IBM ソフトウェア事業 WebSphere Marketingの土屋 佐知子がプレゼンテーションを行いました。

「グローバル化した企業競争の中でビジネスを成功に導くためには、環境の変化に柔軟に対応できるITシステムが必要です。この課題に対して、企業内のITセクションだけではなく、CEO(最高経営責任者)も含めて全員で取り組まなければなりません。

従来は、ITインフラを導入する際のコストや品質に重点が置かれていました。しかし、これからは変化に柔軟に対応できるスピードが求められます。そこで注目されているのがSOAです。IBMでは、SOAを使ったベストプラクティスの積み重ねや製品群の充実により、さまざまなソリューションをご提供できるようになりました。すなわち、Real SOAが始まっているのです。

これからReal SOAの実現を目指す場合、考慮すべき重要なポイントが七つあります。IBMでは、それらのキーポイントをしっかり踏まえながら、SOAの活用を支援しています。



マーケットプレース・シアターでのプレゼンテーション